

灯



今回の大震災で真っ先に小松左京氏の「日本沈没」という有名な小説を思い出した。

40年ほど前に映画化されたので、ファンだった私は会社を早退して映画館に駆け付けた記憶がある。その後、

数年前にリメイクされたが、これは原作とはかなり内容が遊離しており、期待外れだった。

失 消 都 首



輔 義 草 野

とき日本はどうなるか、どうすればよいかをさまざま視点からシミュレーションしたSF小説なのだが、今回の東日本大震災とそれに伴う福島原発の事故などのことを思うと、一極集中の危うさを考えざるを得ない。今話題の橋下大阪府知事が提唱している大阪都構想は大いに検討に値するのではないか。

大震災の後、日本は新しい発想で国の再建をしていかなければ、という意見が多い。世界も日本は

同じ小松氏の著書で「首都消失」という作品がある。これは「日本沈没」ほどには話題にならなかったが一極集中の象徴ともいふべき首都東京が奇妙な雲にすっぽりと覆われ、外界から完全に遮断されてしまった。

わが国の政治経済の司令塔が集中している東京がなくなった

再び、あるいは3度復活する、と注目しているそうだが、それには弾力性のある柔構造の国づくりが必要なのではないか。首都に代わりうる場所があることも柔構造の一つという思いがする。東京だけが日本ではないはずだ。

(昭和学习園高校理事長・日田市)